第2回県立丹波並木道中央公園あり方検討会における委員意見

資料１-２

No,	大分類	小分類	意見要旨
1	委員意見	県立丹波並木道中央公園整備の経緯他	公園の位置づけに地域活性化が明記されているため、公園だけでなく地域の活性化も睨んだ議論を進めることもありえるのではないか。（澤木会長）
2	自然環境保全	ゾーニングについて	・利用ゾーンの中にもセミの羽化が観察できるところや眺望がよい場所がある。そのため、多様な方にゾーニング図Bについて考えていただき、更新していくという方針は良いと考える。（谷垣委員） ・ゾーニング図Bは冬に現地確認し素案を作成した。季節がよくなれば記載すべき内容が増える可能性がある。（角谷委員） ・森の聖域ゾーンは整備によっては、将来的にゾーニング図Bの散策ゾーンに加えることもあり得るのではないか。（澤木会長） ・森の聖域ゾーンはゾーニング図Aに「あまり人の管理を入れないエリア」として設定しても良いのではないか。（澤木会長） ・利用ゾーンの管理目標等をより細かく設定するほうが良いのではないか。（澤木会長） ・公園入口の並木や青山池付近の法面の桜等、シンボル的な樹木があるため、これらの取り扱いについて検討いただきたい。（谷垣委員） ・恐竜に関しての取り組みを検討できるエリアがゾーニング図Bにあれば良いのではないかと考える。（奥岸委員）
3		その他	・植樹する際は季節感や鳥、虫等にも配慮しながら検討を行っていただきたい。（角谷委員） ・園内で自然に関心を持つような仕掛けが出来ればよいのではないか。（角谷委員） ・化石が出てくる地層を活用しようとすると、地層の上にある樹木を撤去しなければならないため慎重な議論が必要であると考える。（奥岸委員） ・法面が多いため、参加型の植林等を実施し、自然植生を回復していっても良いのではないか。（澤木会長） ・希少種への配慮としてビオトープの再整備を実施してはどうか。（角谷委員）
4	活性化	管理運営協議会等について	・明石公園のみんなのみらいミーティングのように、アイディアをもち、活動主体となれそうな方が自由に参画できる場を定期的に設けても良いのではないか。（澤木会長）
5		公園のさらなる利用・促進を促す仕組み	・公園の活性化のみならず移住定住等の役割も求められるというご意見を聞いて非常に考えさせられる会議となった。（谷垣委員） ・公園で何かしたい人の意見を円卓会議にかけてどんどん実現していく仕組みを設けるのが今どきのやり方ではないかと考える。（澤木会長）
6		その他	・参考資料で都市農村交流といった役割が記載されていたため、公園に都会の人等と丹波との関りをもたすプロモーションの役割があるもしれない。（澤木会長） ・利用、参画を促す取り組みについてはもう少し議論がいるかもしれない。情報マネジメントと合わせ、公園でやりたいことを実現するための仕組みを検討することで課題が見えるかもしれない。（澤木会長） ・もう少し化石にフォーカスした公園にしても良いのではないかと考える（奥岸委員） ・恐竜遊具については非常に評判がよいのでより大きなものを求める声がある。（奥岸委員） ・学びや遊び等を一個所で行える場所があればよいという意見が多い。公園がそのような場所になればよいと考える。また遊具までの間に休憩所やベンチがほしいという意見があり、こういった施設があれば子連れの方が公園に足が運ぶようになると考える。（北川美佳委員）